

公明党議員団視察報告書

1 視察先・目的

- ・岡山県総社市

障がい者千人雇用事業について

- ・香川県高松市

多核連携型コンパクト・エコシティについて

高松丸亀町商店街の再開発について

- ・愛媛県四国中央市

デマンドタクシーの取り組みについて

2 期間

平成29年7月31日～8月2日

視察報告書

日 時	平成29年7月31日(月) 午後1時30分から3時30分まで
視 察 先	岡山県総社市
視 察 項 目	障がい者千人雇用事業について
視 察 者	公明党議員団 (泉 清秀、大村 聡)
視 察 内 容	<p>総社市は、平成20年9月のリーマンショックを契機に障がい者千人雇用事業に取り組んだ。</p> <p>同事業は、障がい者千人雇用センターの設置などにより、就労継続支援A型事業所（野菜作りやパソコン作業など）と就労継続支援B型事業所（軍手の結束や小物製品製作など）への就労支援を行うものであった。現在は、工賃アップのためのアイデアを市が提供できるように取り組んでいるとのことであった。</p> <p>市長は、次の目標を障がい者1,500人雇用としている。しかし現実には、A型就労支援の受入企業も、継続的に支援をするには厳しいのが現状であるとのことであった。</p> <p>今後の取り組みとして、乳幼児・就学期は就学前・就学時における移行及び相談支援など、就労期は施策のステップアップとして、全国平均を上回る工賃の確保など、高齢期は安心した老後のための移住支援として、老後を過ごせるための居場所・住まいの提供などを行うとのことであった。</p>
所 感	<p>市長のトップダウンでスタートした「障がい者千人雇用」は、当初は高い目標であったが、市長の中には確固たる裏付けと確信があったと聞き、感銘を受けた。</p> <p>コンビニエンスストアに障がい者が製造した製品が置いてあるのは、1店舗だが、これから先は販売店舗数も増えていくと感じた。</p> <p>様々な取り組みを具体的に展開した結果「障がい者千人雇用」を達成したことに改めて総社市が一丸となって取り組んだ結果であると痛感した。まさしく、障がい者一人ひとりが、安心して地域で暮らせる社会の実現「全国屈指の福祉先駆都市」の実現の礎ともなる。</p> <p>本市においても、総社市に負けぬよう障がい者の支援の拡充を目指していただきたいと感じた視察となった。</p>

視察報告書

日 時	平成29年8月1日（火）午前10時から正午まで
視 察 先	香川県高松市
視 察 項 目	多核連携型コンパクト・エコシティについて
視 察 者	公明党議員団（泉 清秀、大村 聡）
視 察 内 容	<p>高松市では人口が2014年（平成26年）の42万人から2060年（平成72年）には27万8,000人へ減少することが見込まれている。さらに高齢化率は約38.9パーセントと約5人に2人が高齢化になると予測されている。</p> <p>同市では、30年、50年後においても、活力を失わず、市民がいきいきと安心して暮らせるよう、コンパクトで持続可能なまちづくりに取り組んでおり、目標とする「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現に向けた取り組みを後押しするため、高松市立地適正化計画（仮称）を策定した。</p> <p>同市では、低密度な拡散型の都市構造として都心や郊外部の拠点の密度の低下により都市機能がうすく拡がったまちが形成されている。</p> <p>課題については、空き地や空き家の増加、公共交通の利用者減によるサービスの低下などが挙げられ、このまま進むと都心地域の空洞化及び都市活力の喪失、医療・福祉・商業・生活利便サービスの機能の低下につながるおそれがある。</p> <p>今後は、居住誘導区域、都市機能誘導区域、誘導施設の検討を行うとのことであった。</p>
所 感	<p>高松市において、今後急速に進む超高齢化、都心地域の空洞化及び都市活力の喪失が予測される。そのため、同市は立地適正化計画策定を打ち出して持続可能なまちづくりに取り組んだ。「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を後押しする施策である。</p> <p>少子高齢化を見込んでやらなければいけないことは何かを取捨選択することだと感じた。どこが必要でどこが必要ではないのかを感じる力が大切だと思う。</p> <p>コンパクト・エコシティが必要となる時代が必ず来ると思う。本市においても、少子高齢化が進んでいる。高松市同様、市民の意見を聴き、学識経験者や公募委員などで構成する市民懇話会を開いてほしいと感じた視察であった。</p>

視察報告書

日 時	平成29年8月1日（火）午後1時から2時30分まで
視 察 先	香川県高松市
視 察 項 目	高松丸亀町商店街の再開発について
視 察 者	公明党議員団（泉 清秀、大村 聡）
視 察 内 容	<p>丸亀町商店街は、江戸時代から400年以上の歴史を持つ商店街であった。各種イベント事業などの様々な取り組みを行ってきた。発展の契機となったのが、町営駐車場の建設である。今ほどは自家用車が普及していない昭和47年、商店街運営の駐車場を整備した。現在では駐車場事業が、様々な不採算事業（イベントホール、巡回バス、カード事業、各種イベント等）の資金源となっている。さらなる発展に向け、平成元年頃から再開発事業の検討を始めた。</p> <p>再開発前には細分化されていた土地利用が、再開発後には、定期借地により土地の所有と利用を分離した、などの変化が挙げられる。</p> <p>今後の再開発では、生鮮市場・温浴施設・保育園・高齢者福祉施設・高齢者向賃貸住宅・まちなかの防災拠点の導入を検討している。</p>
所 感	<p>高松丸亀町商店街は、江戸時代から400年以上の歴史を持つ大変に賑わいのある商店街であったが、様々な時代の変化により衰退の一途をたどった。駅前の一等地が衰退すると、行政が再開発に乗り出すもなかなかうまくいかない。駅前に新しい空きビルができ、仕方なく役所は公的な施設などで穴埋めするという悪循環を繰り返すことになることから、地元主導でしかまちづくりは成功しない。</p> <p>丸亀町商店街振興組合の理事長である、古川康造氏によれば、新たに丸亀町商店街が軌道に乗ることができた最たる要因は一言でいえば、丸亀町には脈々と400年も続いてきたコミュニティが現存していたからとのことである。その土台があったからこそ、地権者の合意が取れた。どれだけ優れたリーダーがいても、行政の支援があっても、地域のコミュニティが崩壊していれば開発は不可能だ。生まれ育った地元に対する熱意と触媒とコミュニティの存在こそが、再開発の成功には必須の条件であるのは間違いないとのことであった。</p> <p>理事長以下数名の強い思いが、再開発の成功を導いていることに感銘を受けた視察であった。</p>

視察報告書

日 時	平成29年8月2日（水）午前10時から11時30分まで
視 察 先	愛媛県四国中央市
視 察 項 目	デマンドタクシーの取り組みについて
視 察 者	公明党議員団（泉 清秀、大村 聡）
視 察 内 容	<p>四国中央市は、地勢上、平野部が狭小で谷筋が多い地域や幹線道路が整備されていない地域が多く、路線型交通ではバス停の位置が自宅から遠い地域などをカバーすることができないことから、一定の区域ごとに「デマンド型（予約型）の乗り合いタクシー」の区域運行を実施している。</p> <p>利用者のトリップ解析により、どのように利用者の利便性と乗車効率の向上を図るかが今後の課題である。</p> <p>利用者のうち、70～80代が9割を占めており、路線バスの廃止による交通弱者が生まれる。定期的に定点を回る、路線バスやコミュニティバスとの組み合わせの検討も必要と考えているとのことであった。</p> <p>今後は、利用者の声や地域からの要望を受けていると、いわゆる交通空白地帯でない地域からの要望もあるが、路線バスの廃止が条件のため戸惑いの声も大きいため、課題でも上がっているが、定期便との組み合わせの検討の必要性も感じているとのことであった。</p>
所 感	<p>地域の実情に即した輸送の実現に真剣に取り組む姿勢を強く感じた視察であった。</p> <p>公共交通利用案内を見ると、路線バス、高速バス、鉄道、タクシー及びデマンドタクシーの利用案内や問い合わせ先が掲載されており、交通格差解消への意欲を強く感じた。</p> <p>新たな公共交通機関として注目を集めるデマンド交通だが、住民の足として根付くには、ニーズに合わせた見直しが不可欠になる。行政主導ではなく地域の人と一緒に進めていくことが重要とのこと。住民のニーズ、住民との対話をいかに積み上げていくかに事業の成否がかかっている。</p> <p>地域公共交通の活性化及び再生を目指して、市民に必要な交通機関の確保、「交通格差」解消へ住民と一緒に進んでおり、大変に参考となる視察となった。</p>